**社会科学習指導案**

学校名　羽曳野市立高鷲南中学校

指導者　教諭　（T1）

　　　　栄養教諭　（T2）

1．日時　　平成30（2018）年12月5日（水）4時間目　11：40～12：25

2．場所　　第1学年

3．単元名　第1部第3章6節　オセアニア州

（1）オセアニア州の自然環境

（2）移民の歴史と多文化社会の歩み

（3）海外と結びついたオセアニアの産業

（4）強まるアジアとの結びつき

4．指導にあたって

（1）教材観

　毎日の食事が、日本だけでなく諸外国で作られた多くの食材で支えられていることを実感できるようにしたい。そこで先日のボランティア清掃後に食べたＰＴＡの方手作りのカレーの食材について、日本の食料自給率と輸入している国を調べ、日本に食材を多く輸入している国のひとつがオーストラリアだと気付かせたい。また、オーストラリアの豊かな農作物が気候と上手く付き合いながら育てられていることの理解を深めたい。そして、オーストラリアの農産物には米がある。この米は明治時代に移住した日本人が作り始め、今は輸出する量を収穫できるまでになっている。近年、オーストラリアで作られた米の一部が、ＴＰＰ（環太平洋パートナーシップ）により無関税で今までより多く輸入されることが決まった。そのルールが決まるまでに、日本の国内外でも賛否両論、様々な立場や状況を考慮して多くの意見で溢れた。本時では、オーストラリアから米を自由に輸入できることに対して、賛成する側の意見、反対する側の意見に子ども達を触れさせ、自分の意見を考えさせる機会を作りたい。

(2) 指導観

社会科では1学期当初から授業規律の徹底や、学習目標の提示とワークシートでの目標準拠評価、導入・展開の工夫、班活動を通じた資料の読み取りや話し合い活動、そして毎時の学習内容を各自でまとめる学習形態を採用してきた。その結果、協働的に学習を行うことや、１つの資料から必要な情報を読み取り、まとめるという作業は定着している。さらに、複数の資料から読み取ったことを関連づけながら、その背景となっている事象について考えるという点を2学期後半からは意識的に取り入れているところで、より一層定着を図りたい。

子ども達が身近に食べている物から、オーストラリアと日本との関係に気づくことで、興味関心を喚起し学習意欲の低い生徒にも主体的にその繋がりに対し自分の意見を考える場面としたい。また、これからの社会を作る子ども達が、日本や世界の国が豊かになるため、どのように寄り添い、つながると良いのか考えられる人になってくれることを願いたい。

5．本時の展開

（1）目標（【　】…食に関する指導の視点）

気候風土と深く結び付いたオーストラリアの農作物が、私たちの食生活と深い繋がりがあることに気づき、その繋がりに対し自分の意見を考えることができる。【食文化】

（2）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生徒の学習活動 | 主な発問と予想される子どもの反応など | 指導上の手立て |
| 1.私たちが食べる  カレーライスの日本の食料自給率と産地を調べたり、気づいたことを全体化して共有・確認する  【Ｔ２】  オーストラリアと日本との食べ物のつながり  2．オーストラリアの農作物の特徴を知る。【Ｔ１】  3．海外から日本に輸入されている米の状況を知る。  【Ｔ１】  4．オーストラリアから米が自由に輸入できることに対して意見をもち、共有する。【Ｔ１】【Ｔ２】  5．【学習内容の確認と活用】の記入。本時の学習内容についてまとめる。 | ○カレーに入れる食品は？  ―米、たまねぎ、じゃがいも、にんじん  　牛肉、カレー粉、小麦粉  ○カレーの食料自給率を調べよう  ○食材が日本以外でどの国から輸入されているのか別紙のグラフから読み取ろう  ○気づくことを書いて、班で交流しよう  ―オーストラリアで作られた食べ物を色々な種類食べている  ○場所により降水量が異なり、適した農作物が育てられていること。農作物には、小麦、牛肉、羊毛があることを押さえよう。  ○海外から日本に米が輸入されている状況を押さえよう  ○反対と賛成の意見を聞いてみよう  反対【Ｔ２】  ・米農家の思い、米を作る方が減る  賛成【Ｔ１】  ・日本の米や農産物は海外で高く売れている。輸出の機会が増えるのはビジネスチャンスである  ○オーストラリアから米が自由に輸入できることに対して、あなたは賛成か反対か、その理由について考えよう。 | ＊ワークシート、別紙プリントを配る。  ＊自分が食べているものを  ふりかえられるようにする。  ＊ワークシートに書いた項目を個人→班→クラスで共有する。  ＊つまづきがないかを確認する。  ＊私たちが口に入れるものがどのような場所で育てられているのか知るのは大切なことだということを伝える  ＊資料の掲示を行い、イメージを持たせる  ＊オーストラリアの米は、移住した日本人が作り、広めたことを伝える  ＊ＷＴＯとＴＰＰを簡潔に伝える  ＊答えに正解・不正解がないので、自分の意見を自由に考えて良いことを伝える。  ＊机間指導を行い、つまづきがないか確認、助言する  ＊個人で考え、班や全体で共有し、いろいろな考えに触れるようにする。  ＊ワークシートを提出させ、学習内容の確認をする |